令和８年度第３回宝塚市パブリック・コメント審議会議事録

開催日　　令和８年１０月９日（金）午前９時４５分～１１時３０分
開催場所　中央公民館２階　２０３・２０４会議室
出席者　　委員：山下、善教、金岡、平原、秦、齋藤、宮本
　　（計７名・欠席１名）
　　事務局５名、傍聴なし

議事
（１）令和７年度に実施したパブリック・コメント手続の個別評価（案件 No.４～６）について・・・資料４～６

１　開会
　会議の成立

事務局　　本日の出席者は委員８名中７名で、過半数となり審議会は成立
傍聴希望者はなし。
（資料の確認）

会　長　　案件 No.4～6 の審議に入る。まず、案件 No.4「宝塚市パークマネジメント計画（案）」から評価を始める。各委員から意見を伺ったうえで、評価を最終的に決めていく。

委　員　　パークマネジメント計画概要版は非常に分かりやすく、よく作り込まれている印象である一方、何に対して意見を述べればよいのかが見えにくく、ややコメントしづらい内容である。計画の趣旨は 1 ページ目上部の説明で概ね理解できるが、全体としてはその内容を膨らませた構成に見える。また、普段利用していない公園の実態が分からないため、具体的な意見を述べにくい。
　さらに、市がこの計画で何を目指しているのかが十分に見えない。まちづくり協議会を対象とした説明では、今年度は全市ではなく 3 公園を対象に進めるとの説明であったが、その際に予算がない旨の話があり、補助金活用も未定とのことであったため、結果として地域に公園管理を担ってもらう方向性なのではないかと感じた。中山コミュニティでも公園の在り方に関するアンケートを実施したが、その後の進展は見られなかった。
　以上から、冊子としては非常に見やすく整理されているものの、計画の最終的な方向性や実現に向けた具体的な道筋が見えにくい。

委　員　　冊子の内容は非常に分かりやすく、理想的な公園の形を描いているが、計画を作るだけではなく、その後の維持管理の安定が重要である。維持管理には人手が必要であり、地域での協力が欠かせない。小浜の交差点の円形花壇についても担い手が見つからず、結果的に管理を断念した事例がある。自治会が機能

している公園は定期的な草刈りや手入れが行われ、安全で安心な環境が保たれているが、そうではない公園も多く、草が生い茂るなど管理が行き届かない状況が見られる。理想と現実のギャップが課題である。

委　員　　パークマネジメント計画は、宝塚市として何をどう進めていくのか、またそのための予算や実施方針が示されておらず、宝塚市固有の計画としての具体性に欠ける。概要版・本編ともに一般的な内容にとどまり、他市の計画に置き換えても違和感がない。

私の地区では、まちづくり協議会を通じて自治会にも働きかけがあり、現場で協力してきたが、コンサルタントが説明するのみで、市が何を目指しているのかが示されず、公園の選定やアンケート配布に協力しても、その結果をどう活用するのかが見えないため、意義が分かりにくい。

パブリック・コメントとしては、今後の宝塚市の公園整理方針や年次的な進め方、未定部分も含めた具体的な論点を示した上で意見を求めるべきであり、現状の資料では意見の出しようがない。そのため、パブリック・コメントを行う対象としては内容が不十分であり、評価は低い。

一方で、No.3 の街路樹管理計画については、対象路線や整理の方向性など具体的な内容が示されており、計画として理解しやすかった。

委　員　　冊子はイラストが多く、非常に分かりやすく作られており、説明会等においても丁寧に説明されていたとの印象が示された。資料の構成や表現方法については概ね適切である。

一方で、他の委員からの指摘と同様に、市が公園を今後どのようにしていきたいのかという方向性が見えにくい。また、この点はコメントの出し方というよりも、計画内容そのものに関わる課題である

委　員　　市が全ての公園を管理していくことは難しく、小規模な公園では地域住民が自主的に管理せざるを得ない状況にある。ただし、その管理を地域の自主性に委ねることが適切かどうかは課題である。民間活力の活用についても、大規模な公園でなければイベント等の実施は難しい。一方で、地域で行われている定期的な活動やイベントについて、より広く周知していくことが重要である。

また、No.3 の街路樹管理計画と同様に、計画に費用面の記載がないため、どの程度の規模や水準を目指しているのかが分かりにくく、費用をかけて整備するのか、抑制的に進めるのかといった判断材料が示されておらず、概要版を読んでも計画の実現規模が見えない。

なお、市民意見に対する市の回答については、一定程度なされていたのではないかと感じた。

委　員　　本計画は、公園で何を行うかという計画というより、どのように進めていくかという管理の枠組みに関する計画であるため、内容が分かりにくく、結局何

をしたいのか分かりにくいと受け止められやすい。

また、市民協働については、行政側の人員不足を市民の無償協力で補おうとするものと受け取られやすく、実際にそのような趣旨の質問も寄せられている。それに対する回答も十分にかみ合っておらず、弁明的な印象を与えている点は、パブリック・コメントの機能としては課題である。協働を求めるのであれば、どの部分で協働を求めるのか、どのような仕組みで一緒に考えていくのかを、計画としてより明確に示す必要がある。

全体として、資料の見た目は整っているものの、市民が意見を出しにくく、また市側も回答しにくい構成となっており、何をやりたいのか、何を問うているのかが見えにくい計画になっている。一方で、回答からは対応しようとする姿勢自体は見受けられ、一定の範囲では適切に応答している。今後は、計画の目的や意図がより分かる形に改善すべきである。

会　長　　パブリック・コメント資料としては、色使い、イラストや写真のレイアウト、文章の平易さなどの点で非常によくできている。

一方で、意見を出そうとした際に、対象となっているパークマネジメント計画とは何であるのかが分かりにくい。市全体の公園マネジメントに関する大きな方向性を定める計画であり、個別公園の整備内容を示すものではないため抽象的になるのはやむを得ないが、この計画は何のためのものかが読み手にすぐには伝わりにくいところがある。

また、寄せられた意見には、市民協働に対する賛否や批判といった総論的なものと、花を植えるなど個別具体の提案という大きく二つの傾向が見られる。個別具体の提案については参考にするとの回答にとどまっているが、もう少し丁寧に応答すべきではないか。市民協働など総論的な意見に対する回答についても、全体として丁寧ではあるものの、やや中途半端に留まっているとの印象がある。

全体を通して、意見はあるか。

委　員　　パークマネジメント計画を資料から見る限りでは、大まかな方向性を示すものとして理解していたが、その後、各まちづくり協議会に出向いて、区域内の複数の公園から一つだけ選ぶよう求められたことに違和感がある。対象が一つの公園に絞られると、普段利用しない公園であった場合には関心を持ちにくくなる。

委　員　　パークマネジメント計画について、コンサルタントが作成した内容をそのまま反映しているだけであり、宝塚市らしさや独自性が感じられない。概要書の内容は、他市の計画にもそのまま当てはめられるものであり、宝塚市として公園をどうしていきたいのかという視点が欠けている。

また、計画を策定するにあたり、宝塚市の「みどりの基本計画」を基盤に、公園の整備方針を具体的に示した上で、コンサルタントに他市の事例や専門

的な知見を活用してもらう形が望ましい。現状では、外部のコンサルタントが作成した計画をそのまま使用しているだけであり、現場の市役所職員も十分な説明ができていない状況が見受けられる。

さらに、コンサルタントの活用方法やその役割について、市として明確に位置付けた上で計画を進めるべきである。今回の計画は、外部委託の課題を考える上での一例として捉えるべきではないか。

会　長　　この計画は、宝塚市の固有の事情を反映させるものではなく、宝塚市としての公園管理の考え方を示すものであるため、他市に置き換えても問題のない内容であるとは思う。しかし、そのような性質ゆえに計画の目的や内容が市民にとって分かりにくい部分があり、より理解しやすくするための工夫が必要である。

総合評価は、Aが4名、 Bが3名、Dが1名ということで平均すると4.25。4以上ということで、総合評価はAでよいか。

私はAをBに変更する。

事務局　　会長がAからBに変更したことで、 Aが4名から3名になり、 Bが3名から4名、Dが1名ということで、平均すると4.125。 4以上ということで、総合評価はA評価。

会　長　　A評価でよいか。

委　員　　（全員了承）

会　長　　それでは、この件の意見として、コンサルタントとの関係を含めた意見が出されており、その取扱いについては、最後に改めて議論する。

次に、No.5「2次宝塚市教育振興基本計画（案)」の評価に移る。

委　員　　概要版については、文言が明確で全体として分かりやすく、内容も一定程度伝わるものとなっている。一方で、冒頭の表紙に掲げられた「自分を大切に、ふるさと宝塚を大切にする人づくり」という中心的な文言については、計画本編の内容との結び付きがやや見えにくく、表現が先行している印象がある。

また、子どもを含めた市民に対して、その理念が実際に浸透していく内容となっているのかについては疑問がある。理念自体は重要であるものの、それが読み手に十分訴求し、理解や行動につながる構成になっているかについては、なお工夫の余地がある。

委　員　　概要版については、情報量が多すぎるため、読みやすさを向上させる工夫が不足している。文字が多く詰め込まれている印象があり、情報を整理し、簡潔にまとめることで読み手にとって分かりやすい構成にする必要がある。この

点は、概要版だけでなく、本編にも共通する課題である。

また、概要版の 5～6 ページに記載されている施策の体系について、重点施策とその後の具体的な 8 つの教育施策との関係性が分かりにくい。施策の体系を示すのであれば、重点施策と具体的な施策の対応関係を明確に示すことで、読み手がより理解しやすくなるのではないか。全体として、読ませよう、または読んでもらおうという工夫が不足している印象であり、改善の余地がある。

委　員　　教育に関する計画では、ソフト面の内容が多く、漠然とした印象を受ける。他の自治体との差別化を図るためにも、宝塚市ならではの特徴やアピールポイントを明確に示す必要があるのではないか。

委　員　　第 2 次計画であることを踏まえると、第 1 次計画との違いや反省点を明確に示し、今回の計画でどの部分を改善し、どこに重点を置いているのかを具体的に記載すべきである。概要版においては、重点施策が 8 つ挙げられているが、それだけでは内容が分かりにくく、本編に記載されている 15 項目の施策を概要版にも明記し、その中で特に重点的に取り組む項目を示すことで、方針がより明確になり、コメントを求める内容として適切になるのではないか。

さらに、表紙に関しても、自分を大切に、人を大切にする人づくりという文言は良いが、第 2 次計画としての位置付けや後期計画としての具体性を表紙に示すことで、より分かりやすい資料になるのではないか。

委　員　　本計画に関するパブリック・コメントでは、非常に多くの意見が寄せられた点が特徴的である。特に子どもを持つ親からの細かい質問が多く、教育に対する関心の高さが伺える。寄せられた意見には、教育に関する具体的な知識を持つ市民からの専門的な指摘も含まれており、例えば ICT 教育はヨーロッパでは行われていないといった具体的な反対意見が挙げられていた。これらの意見から、教育問題が市民にとって非常に重要視されている分野であることが分かる。

また、概要版については、内容が非常に簡潔で一般論的な教育論に留まっているため、子どもを持つ親に対してどうなのかという具体性が不足している。その結果、内容が抽象的であるがゆえに、多くの市民が意見を寄せるきっかけになった可能性もある。

さらに、概要版はあっさりした構成であるものの、多くの意見を引き出したという点で一定の役割を果たしたと言える。

委　員　　パブリック・コメントのプロセスに関して、概要版の修正が限度を超えており、性質が大きく変わっている点に問題がある。修正ではなく、新たな資料を作り直したような形になっており、これが市民に示された最初の概要版との整合性を欠くことで、行政の信頼性を損なう可能性がある。プロセスの適正性

を確保するためにも、こうした変更は慎重に行うべきである。

また、計画の内容については、基本や重点とされている項目がどのように体系化されているのかが分かりづらく、論理的な整合性が欠けている。市民に対して意見を求める資料としては、内容の整理や分かりやすさが不足している。

さらに、パブリック・コメントの応答については、回答が雑であり、誠実さが欠けている。特に回答は別の回答欄に記載しているのでそちらを読んでほしいという形式は、市民に対する対応として不適切であり、行政として誠実に回答する責務があるのだから、市民から寄せられる意見や要望が多岐にわたるため、対応が困難な面があることは理解されるものの、それでも丁寧な応答を心掛けるべきである。

全体として、計画の内容や応答の仕方に関して、改善が必要であり、特に市民に対する誠実な対応が求められる。

会　長　　本計画のキャッチコピーである「自分を大切に、人を大切に、ふるさと宝塚を大切にする人づくり」について、計画のテーマとして使用するのは理解できるが、表紙ではこのキャッチコピーが目立ちすぎていて、教育振興基本計画のパブリック・コメントであることがうまく伝えられていない。キャッチコピーとしては適切ではなく、ピンボケしている印象を受ける。

また、パブリック・コメント募集時に使用された概要版と、完成後に作成された概要版が全く異なる内容であり、これは修正の範囲を超えた別物である。このような変更は、パブリック・コメント制度の趣旨を損なうものであり、行政の信頼性を確保する観点からも問題がある。特に、パブリック・コメント募集時の概要版は文字が多く読みにくい内容であり、意見募集の資料としてはまったく適切ではなかったが、完成後の概要版はイラストやカラーが使われるなど、読みやすさが向上している。また、計画本体も完成版ではカラーやレイアウトの工夫により構成の分かりやすさや読みやすさに改善が見られる。このような変更はパブリック・コメント制度を甚だしく軽視するものといえ、疑問だ。

さらに、前期計画の5年間における点検評価や市長・教育委員会との意見交換を行ったとしながら、具体的な内容や結果が記載されておらず、アンケートの実施結果も示されていないため、市民の意向を反映させた計画であるという点が十分に伝わらない。これらの情報が欠けていることは、計画の信頼性を損ねる要因となり得る。

パブリック・コメントへの応答は、回答が不誠実である。記載した通りですといった回答や、計画本体の説明不足を補わない応答が目立ち、市民の意見に対する誠実な対応が欠けている。

全体を通して、意見はあるか。

委　員　　AからCに変更する。

委　員　　パブリック・コメントに対する回答について、市民が自身の質問に対する回答を確認する際、回答内容が不誠実であると感じられる対応は、市民に不愉快な思いをさせる可能性が高く、改善が必要である。特に、他のところで答えているといった回答や、他の回答欄の回答をそのままコピー＆ペーストしたような対応は、誠実さに欠け、行政への信頼を損なう要因となり得る。

さらに、教育委員会がパブリック・コメントのマニュアルを基に行動しているのか、また過去の経験から学んでいるのか疑わしい。以前にも同様の問題が指摘されているにもかかわらず、改善が見られない点から、教育委員会が学習機会を十分に活用していない可能性がある。

今後の対応として、パブリック・コメントに対する回答の質を向上させるために、マニュアルを見直し、誠実で分かりやすい応答を徹底することが必要である。市民の質問に対して丁寧に答える姿勢を示すことが、行政の信頼性を確保する上で重要である。

会　長　　市長部局や教育委員会の課が組織として、これまでのパブリック・コメントの経験や過去の審議会での指摘を十分に蓄積できていない点は確かに問題である。市役所では職員が異動によって変わるため、個々の担当者の経験や知識に依存する状況が生じているようであり、これが応答の質も大きな影響を与えているようだ。

特に、パブリック・コメントへの応答の書き方については、担当者の能力が反映される部分が大きく、質のばらつきが目立つ。組織として、過去の経験や審議会の指摘等を蓄積し共有することを真剣に検討する必要性がある。

マニュアルを見直すなどして、担当者が変わっても質の高い対応が維持される仕組みを検討すべきであろう。

事務局　　A から C に変更し、再計算すると、計算結果としては 3.5 になり総合評価は B という評価になる。

会　長　　B が 5 名、 C が 2 名、 D が 1 名ということで平均すると 3.5。 3.5 以上ということで、総合評価は B 評価。

B 評価でよいか。

委　員　　（全員了承）

会　長　　それでは、No.6「宝塚地域福祉計画（第 4 期）（案）」の評価に移る。

委　員　　パブリック・コメントの概要や受け答えについては、全体的に特に気になる点はないものの、内容面に関しては漠然としている印象がある。特に福祉をテーマにした部分では、全ての人が、という表現がタイトルにも含まれているため、具体性を欠き、当たり障りのない内容になっている。

また、福祉の分野における具体的な提案や施策の実現には、市としての対応が難しい面があることは理解されるものの、より迅速かつ具体的な対応が求められる場合には、現状の内容では不十分である可能性がある。

今後は、テーマに沿った具体的な施策や取り組みを明示することで、市民にとって分かりやすく、実効性のある計画を提示することが必要である。

委　員　　概要版の 11 ページと 12 ページについて、内容が漠然としている印象である。これらのページでは関係者の名前が列挙されているものの、具体的な内容や意図が伝わりづらく、単に名前を並べただけのように見える。

そのため、内容を伝える工夫が求められており、単に名前を列挙するのではなく、関係者の役割や具体的な貢献などを明確に記載することで、より意味のある情報提供ができるのではないか。

また、現在の記述は過剰に凝りすぎている印象を与える部分があり、もっとシンプルかつ淡々とした表現にすることで、読みやすさや理解のしやすさが向上する可能性がある。

委　員　　表紙に第 4 期との記載があるが、具体的に何年から何年までの計画なのかが分かりにくいため、計画期間を併記することが必要である。

また、概要版では前期の 8 政策から 15 政策へと構成が変更されているが、その変更点やポイントに関する説明が十分ではなく、概要版として重要な情報が欠けている。

一方で、福祉政策は対象分野が広く、内容の整理が難しい面はあるものの、パブリック・コメントにおけるやり取りについては評価できる。

さらに、資料などへのアクセス性向上の観点から、概要版や関連資料に QR コードを掲載し、市民が必要な情報に容易にアクセスできるようにすべきである。

委　員　　概要版については、印刷の仕上がりによって資料の印象が大きく変わる。特に白黒印刷とカラー印刷では、受ける印象が大きく異なり、資料の見せ方の重要性が改めて感じられた。

また、資料内で民生委員に関する記載があり、市の担当者がその役割について丁寧に説明している場面があったことが評価できる。民生委員の役割が深く関わっている点が感じられる内容であり、全体としてよくできた資料である。

委　員　　1 から 15 までの施策について、13 ページの計画の推進で相談、参加、地域づくりの支援の項目に分けられているが、文字が小さすぎるため、内容が分かりづらい。また、前に出てきた施策がここで振り分けられているものの、視覚的に分かりやすい工夫が不足しているため、ぱっと見て内容を理解するのが難しい。

そのため、施策の表示方法を改善し、より見やすく、直感的に理解できるような工夫を施すべきである。具体的には、文字サイズの拡大や、項目ごとの視覚的な整理を行うことで、資料の内容をより分かりやすくすることが必要である。

委　員　　概要版について、特に基本目標以降のページは文字量が多く、全体として詰まりすぎた印象がある。不要な情報は削り、行間を広げるとともに、文字サイズを大きくするなど、読みやすさへの配慮が必要である。特に文字の大きさについては、他の概要版と比べても小さい印象がある。

また、パブリック・コメントへの応答については、攻撃的とまでは言えないものの、全体としてやや拒否的、あるいは冷淡な印象を与える部分がある。コメントの趣旨としては、記載内容そのものへの反対ではなく、書き方によって誤解を招く可能性があるため、その点を踏まえて、表現の工夫や修正の余地を丁寧に検討する姿勢が望ましい。

さらに、細かな文言修正に関する指摘の中には、誤解防止の観点から反映を検討してよいものも含まれていたのではないか。全体として、応答に当たっては、反映の可否を一律に判断するのではなく、考慮可能な点がないかを探る姿勢が必要である。

加えて、質問やコメントに対する応答の一部に、趣旨と回答が十分にかみ合っていない箇所がある。質問に対しては、より直接的で分かりやすい回答とすることで、内容の理解が進みやすくなるため、応答の記載方法には改善の余地がある。

会　長　　資料編は、第3期計画に関する総括・評価に加え、市民アンケート結果やヒアリング調査の内容が整理されており、募集要項でも資料編の参照が促されている点は評価できる。

一方で、表紙のキャッチコピーやデザインについては、市民が手に取りたくなるようなインパクトに欠けており、文字が多く、フォントやサイズにも変化が乏しいため、もう一工夫必要である。

また、募集要項におけるアンダーラインの多用は、かえって読みにくさや煩雑さにつながっていると感じた。

計画本体の脚注にゴシック体を用いているが、本文は明朝体であり書式の統一性に欠けるため、違和感がある。

さらに、市民意見に対する応答は全体として的確かつ丁寧に行われていると評価できるものの、応答の表現には福祉分野特有の言い回しが見られ、一般の市民からするとやや違和感を覚えるかもしれない。

委　員　　基本目標の中に社会的包摂という言葉が使用されているが、この表現が市民にとっては聞き慣れない言葉であり、理解しにくいのではないか。しかし、本編内に社会的包摂とはという注が記載されている点については評価でき、

福祉分野では一般的な言葉であることは理解できる。

一方で、この言葉を市民に理解してもらうために意図的に使用した可能性があるものの、基本目標に記載される言葉としては、より分かりやすい表現を検討する余地があるのではないか。

会　長　　社会的包摂という用語については、計画上使用せざるを得ない専門用語であるといえ、そのうえで用語の説明が付されているのは、丁寧な対応であると評価できる。

福祉分野に特有の専門的な言葉遣いや表現については、それが市民にとっての分かりにくさや、場合によってはやや強い印象につながっている可能性がある。パブリック・コメントへの応答においても、そのような福祉分野特有の表現が、やや攻撃的又は断定的な印象につながっている面があるのではないかと思う。

計画の表紙では、「第何期」という記載だけでなく、何年から何年までの計画であるかが表紙から分かるような表現とすべきであるというご意見については、改めて意見交換を行いたい。

また、概要版及び計画本編については、もともとカラーで作成しているため、カラー版では非常に見栄えが良いが、それをモノクロにした場合には印象や分かりやすさが大きく違ってしまうところがある。カラーとモノクロの見え方の違いについても、今後改めて意見交換すべき課題である。

全体を通して、意見はあるか。

委　員　　なし

会　長　　総合評価は、Aが4名、 Bが4名ということで平均すると4.50。4以上ということで、総合評価はAでよいか。

（全員了承）

委　員　　No.4「宝塚市パークマネジメント計画（案）」の評価を、DからEに変更する。

No.5「2次宝塚市教育振興基本計画（案）」の評価を、CからDに変更する。

会　長　　No.4「宝塚市パークマネジメント計画（案）」の総合評価は、Aが3名、 Bが4名、Eが1名ということで平均すると4.0。4以上ということで、総合評価はA。

No.5「2次宝塚市教育振興基本計画（案）」の総合評価は、 Bが5名、Cが1名、Dが2名、ということで平均すると3.38。3以上ということで、総合評価はCでよいか。

委　員　　（全員了承）

会　長　　予定していた議題は以上である。委員から意見はあるか。

委　員　　パブリック・コメントの募集開始や、資料の閲覧場所、配架場所等に関する周知が十分に徹底されていない。そのため、今後はパブリック・コメント開始の案内について、市の LINE 等を活用して確実に周知するなど、より効果的な情報発信の方法を検討事項として加えるべきである。

委　員　　パブリック・コメントのマニュアルについては、最近も更新してきており、必要に応じて内容の見直しを行うべきである。回答をまとめて示すこと自体は一定許容されるものの、他の回答欄を参照などの一言のみで応答を終えるような対応は避けるべきであり、その旨が明確に伝わるよう修正をすべきである。

また、パブリック・コメントに限らず、近年は市民の協力を得ながら行政運営を進めることが重視されていることから、市民の意見を軽く扱っているように受け取られる対応は避けるべきである。そのため、パブリック・コメントを所管する担当職員に対しては、形式的にマニュアルを配布するだけでなく、市民対応に関して注意すべき点を文書やメール等で具体的に周知し、丁寧な応答を徹底するよう働きかける必要がある。

会　長　　昨年や一昨年にも出された意見であり、それが十分に伝わっていない可能性がある。そのため、パブリック・コメントのマニュアルに、これらの意見をしっかりと盛り込むことが重要である。

なお、パブリック・コメント実施の周知については、最後の会で議論するので、事務局は、どこで資料が閲覧可能かなどの周知方法や資料の配置・閲覧場所等の情報を整理しておいていただきたい。

事務局　　はい。

会　長　　それでは、以上とする。
事務局から連絡事項あるか。

事務局　　次回は、10 月 29 日（木）開催　案件 No.7～9 の審議となる。

会　長　　ここで本日は閉会とする。

閉会